

MARDER II TANK DESTROYER

Sd.kfz.131

KIT NO. MM-160

TAMIYA
静岡市小島 628 〒422

1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.60

ドイツ・対戦車自走砲マードーII



1941年夏のドイツ軍東部戦線は、次々と寄せられる勝利の報告にもかかわらず、戦線が東に移るにつれて少しずつ暗い影がしのび寄っていました。それは、ソ連民衆のバルチザン戦術とT-34に代表されるソ連戦車の強さでした。このことを裏書きするかのようには、前線の戦闘部隊から続々と届けられる公式報告書や通信文は、ドイツ陸軍の第一線兵器が確実に時代遅れのしる物になり下っている記録でうまっていたのです。第3戦車師団作戦参謀からの定期報告書No.156には、T-34戦車の装甲の強靱さについて次のように書かれていました。「真に注目に値することだが、スタンプ少尉の50mm戦車砲でT-34を射たせた。20メートル近くから1発。50メートルの距離で4発。結果は、40型徹甲弾ですら全く効果がないことが解った」。

この報告は、当時、ドイツ戦車部隊と対戦車砲部隊が装備していた最良の兵器、50mm対戦車砲38型でさえ、ソ連主力戦車に対して使い物にならないことを意味していたのでした。ドイツ陸軍は、兵器局に新型対戦車砲の開発を推進させると共に、この急場をしのぐ対策をさがしました。37mm対戦車砲を中心とした歩兵師団対戦車砲大隊の惨状を救わなければならなかったからです。この緊急策として目をつけられたのが、ソ連軍の76.2mm野砲でした。この多用途砲は、対ソ戦初期に弾薬と共に多数捕獲されていたのです。54.2径、砲口制退器付きのこの野砲は、高初速で低伸弾道に威力があり、ドイツ軍兵士が「ラッチ・ブム」と呼んで恐れた砲で、ドイツ軍兵器局は完成されつつある75mm対戦車砲(Pak 40)が量産されるまでの間、まに合わせとしてこの

ソ連製76.2mm砲をII号戦車DおよびE型のシャーシに搭載することを決定したのです。この76.2mm II号対戦車自走砲D～E型(Sdkfz 132)は、ニックネームでマードー(てん)IIと呼ばれ、1941年12月から翌年6月までに150台が生産されました。

1942年に入ると、ドイツ軍のソ連戦車に対する兵器も戦術も、ほのかな光明がさしてきました。75mm対戦車砲が完全に生産ラインに乗り、それに伴ってIV号戦車の主砲が強化され、対戦車砲大隊にもこの砲が続々と支給されはじめたからです。一方、マードーIIの好評に意を強くした兵器局は、同年5月18日、ソ連製76.6mm砲にかえて最新型の75mm対戦車砲(Pak 40/2)を搭載したII号対戦車自走砲の量産を指示しました。この頃になると、II号戦車は戦闘能力においてすでに過去のものとなり、偵察車や連絡車として使われていたのです。こうして生まれたのが、II号戦車A～CおよびF型のシャーシを転用した75mm II号対戦車自走砲A～CおよびF型(Sdkfz 131)「マードーII」です。車体の改造はアルケット社のシパンダウ工場が、また75mm砲の改造はラインメタル社が担当することになりました。両輪とサスペンションおよび脚をとった75mm対戦車砲(Pak 40/2)は、防盾や照準器はそのままにして、車体上部が完全に撤去されたII号戦車の中央に据え付けられました。車体側面は、新しく10mmの大型装甲板でおおわれ、このため小銃弾と砲弾の破片程度は防ぐことができましたが、砲の旋回は、左右65度から、左32度、右25度とせぼめられてしまいました。また車体前部には、走行時の震動から保護する大きな砲身固定具が取り付けられました。

乗員は3名、操縦士は通信士を兼ね、車長は戦況を見ながら砲手の役目を果さなければなりません。また装填手の役目も忙がしいものでした。まず、エンジンカバー上の砲弾用ラックに並んだ7発の砲弾の装填をし、次いで車体左側のラックにある24発、さらに右の6発を1人で引き出しては装填したのです。しかし戦訓を取り入れた1942年末期から生産された車輌には多少の変化が見られました。エンジンをスタートさせるハンドルの取付場所は、車体後部にまわり、操縦士の横にあった無線機も装填手右側の戦闘室に移し変えられました。操縦士が、戦闘時に砲弾の補給係を務めるようになったためでした。この変化は、マードーIIが、攻撃戦よりもむしろ巧みに敵を待伏せして撃退するという防禦型の戦闘に本領を発揮したためだろうと思われれます。また、この頃になると、当時の戦車の標準装備となった新型ヘッドライトと対空用機関銃(MG 42)が取り付けられました。マードーIIの生産は1942年6月より開始され、ヒトラーの命令によってヴェスベ自走榴弾砲に生産を集中するために生産が打ち切られた1943年2月までの間に531台が製造されました。マードーIIは、対ソ戦が初まってから、本格的な駆逐戦車が登場してくるまでの約2年間、その空白を埋めるピンチヒッター的な役割を果たした貴重な車輌のひとつでした。特に装備の貧弱だった歩兵師団対戦車砲中隊に配属されたマードーIIは、ソ連軍戦車から歩兵達を守る重要な火器として活躍したのです。

PARTS

A 部品

1. シリンダー尾栓
2. 閉鎖機部品
3. 閉鎖機
4. シリンダー
5. 旋回ハンドルシャフト
6. ガイドレール
7. バランスダンパー A
8. バランスダンパー B
9. 砲身右
10. 砲身左
11. 砲弾
12. 空薬莖
13. 駐退機右
14. 駐退機左
15. ラックカバー
16. 照準器 A
17. 照準器 B
18. 昇降ハンドルシャフト
19. 駐退機カバー
20. 閉鎖機ハンドル
21. 砲架右
22. 装填部上
23. 砲盾後
24. 砲架左
25. 砲盾前 A
26. 砲盾前 B
27. 装填部後
28. 駐退機前
29. カム
30. 可動砲盾
31. 照準器ケース
32. ケース A
33. ケース B
34. 砲盾ステー
35. ケース C
36. 昇降ハンドル
37. 旋回ハンドル

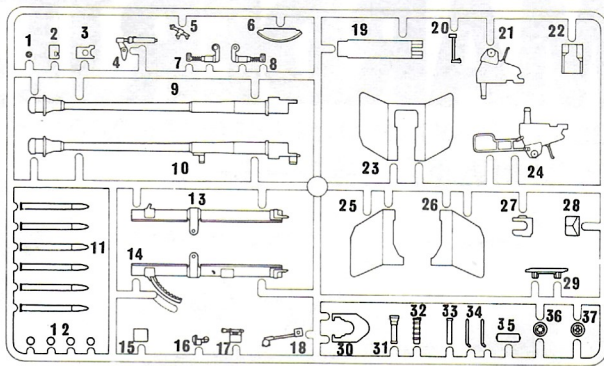
B 部品

1. 無線機ラック A
2. 無線機ラック B
3. 砲基部
4. ガントラベルロック A
5. ガントラベルロック B
6. サポート
7. ケース D
8. ケース E
9. シャベル
10. MG-34
11. シュマイザー
12. MG-34マガジン
13. ライト
14. ベリスコップ
15. ケース F
16. 無線機ラック C
17. ガントラベルロック C
18. 防弾板右
19. リヤヒンジ
20. 砲弾ケース A
21. 砲弾ケース B
22. 砲弾ケース C
23. 内部パネル A
24. ライヤーロープ
25. 防弾板左
26. 車体上部視察窓
27. 補助砲盾左 A
28. 補助砲盾右 A
29. 砲弾ケース A フタ
30. アンテナステー
31. 補助砲盾左 B
32. 補助砲盾右 B
33. フロントフック
34. 内部パネル B
35. 前面装甲板
36. 内部パネル C
37. 防弾板右支柱
38. ガントラベルロック D
39. 砲弾ケース中板
40. のこぎり
41. つるはし
42. 車体上部

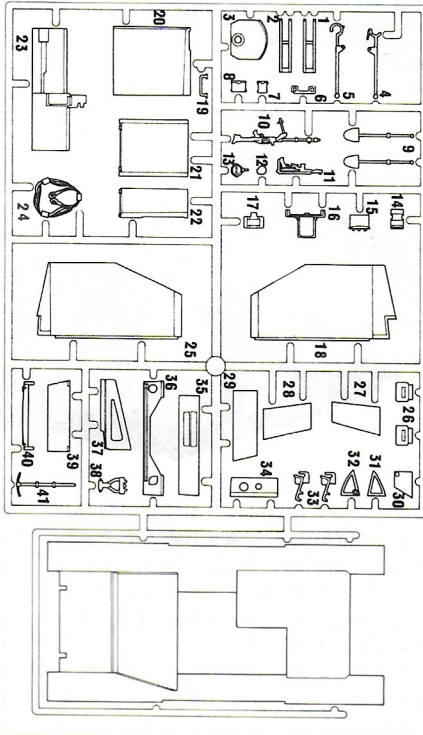
C 部品

1. 補助キャタピラ
2. 人形 A 左腕
3. 人形 A 上半身
4. 人形 A 右腕
5. 人形 A 下半身
6. リヤバルクヘッド
7. リヤパネル
8. 人形 B 身体
9. 人形 B 左腕
10. 人形 B 右腕
11. 木箱 B 1
12. 木箱 B 2
13. 木箱 B 3
14. 木箱 B 4
15. ヘルメット
16. テールパイプ
17. ドライバースシート
18. トランスミッションハウジング
19. トランスミッション
20. フロアパネル
21. ロードホイール
22. ドライブシャフト A
23. ドライブシャフト B
24. サポートプレート
25. エアクリナー B
26. エアクリナー C
27. リヤホイール
28. スプロケットホイール
29. サイレンサー
30. 木箱 A 1
31. 木箱 A 2
32. 補助ホイール
33. 木箱 A 3
34. エアクリナーマウント
35. リヤフック
36. アイドラーホイール
37. ホイルキャップ止め
38. リヤホイールカバー
39. スプロケットホイールカバー

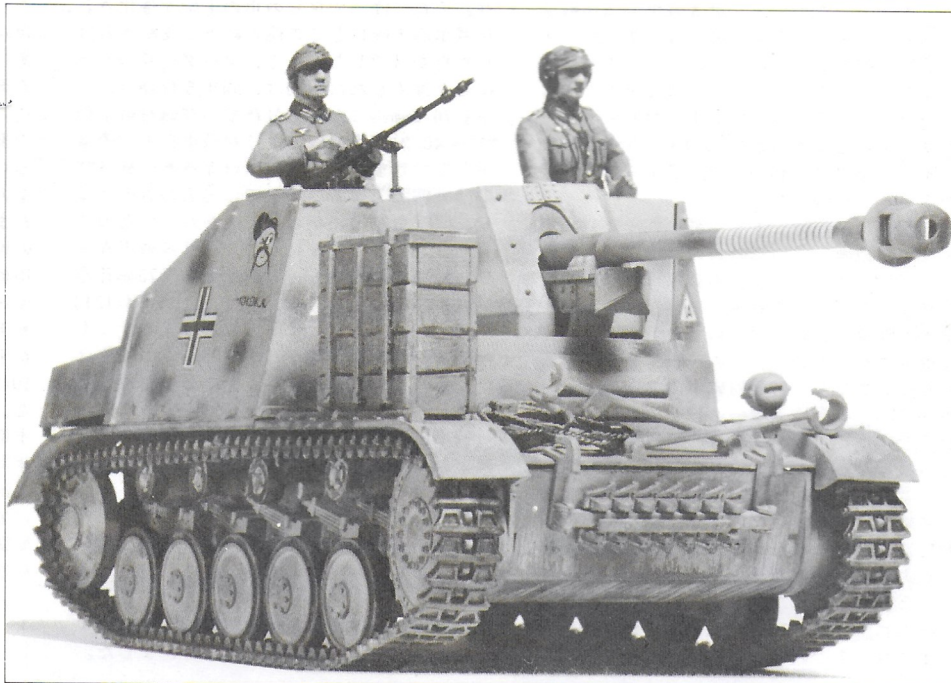
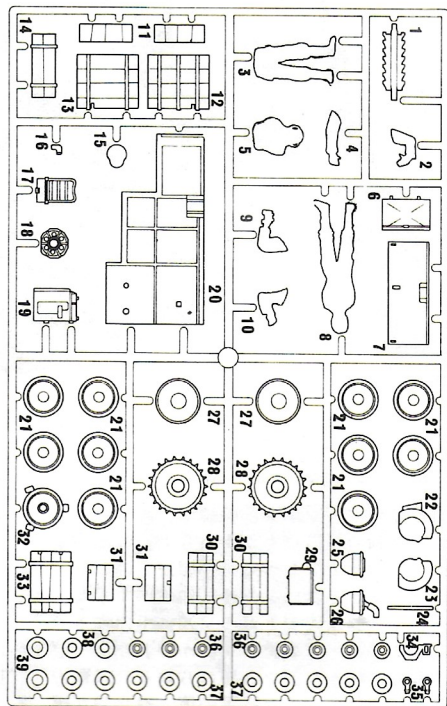
A 部品



B 部品



C 部品



MARDER II

部品を紛失したり、破損なされた方は、このカードの必要部品を丸でかこみ代金を現金書留にて、田宮模型企画部検査課迄お申し込み下さい。

下部	250円
A 部品	200円
B 部品	280円
C 部品	280円
キャタピラ	150円
マーク	60円

田宮模型
静岡市小鹿628 千422



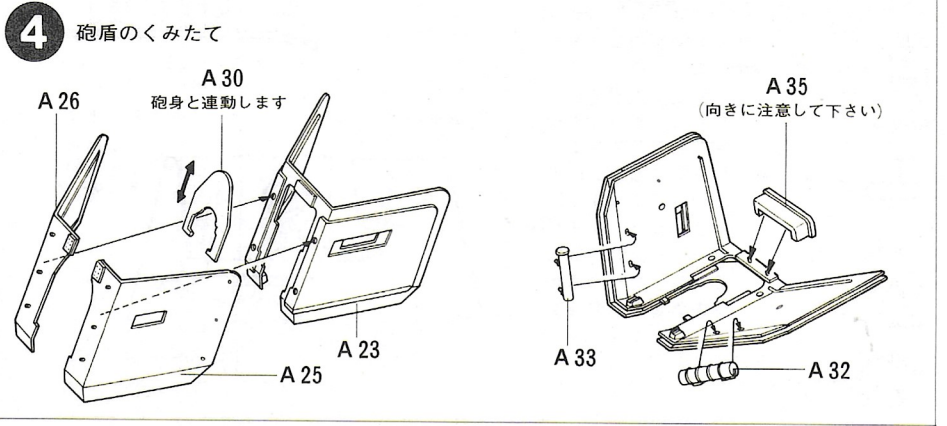
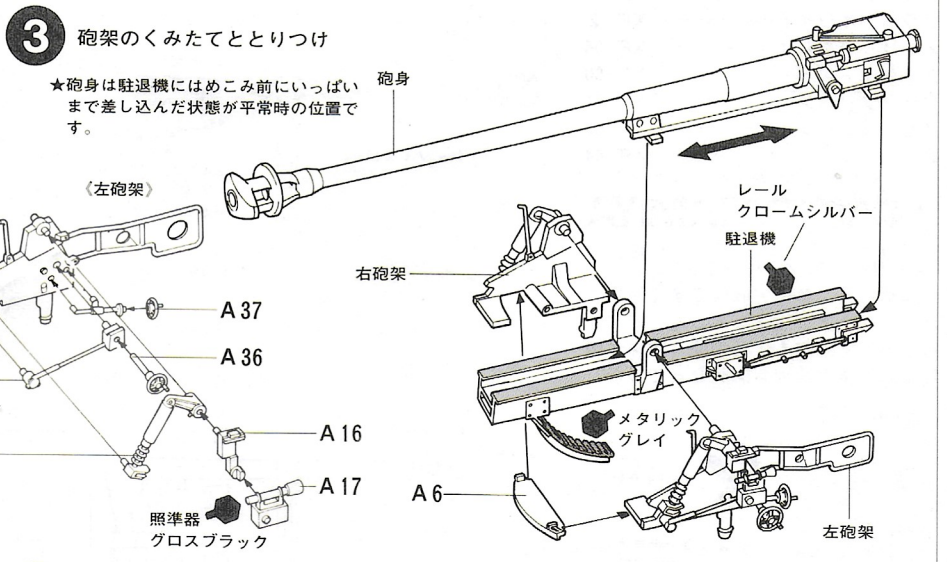
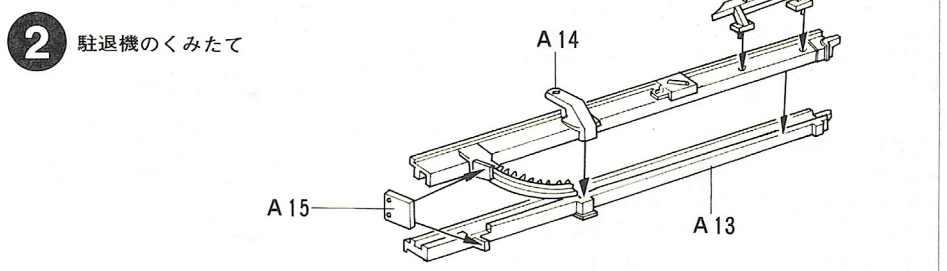
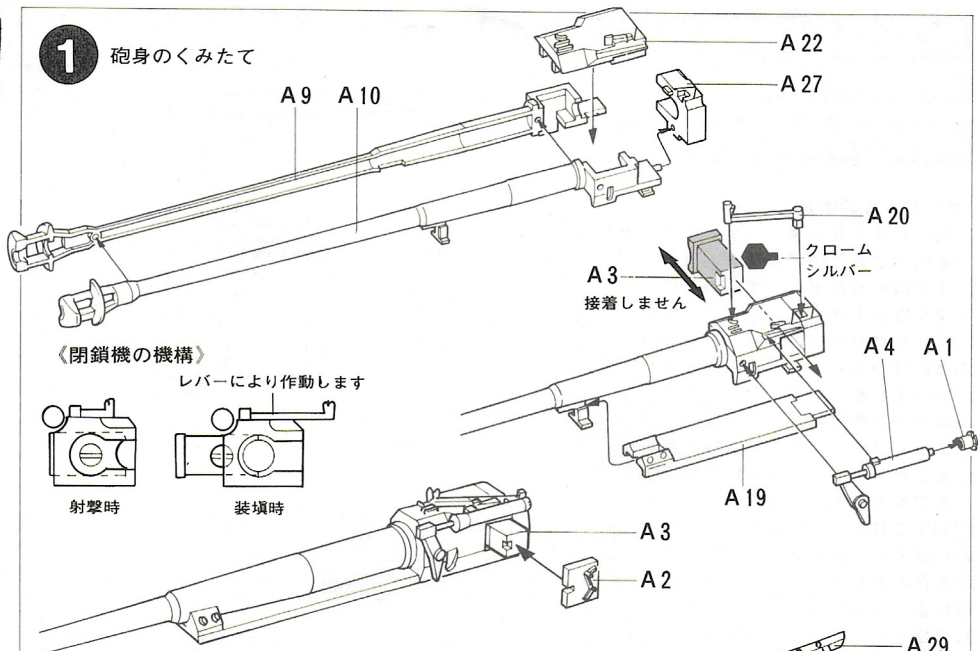
★模型を作る場合にはあわせて作らずに必ず説明書を良く読んでから組み立てましょう。

★ナイフ、ピンセット、ニッパー、ヤスリ等を用意しましょう。

★部品をランナー（枝）から切りはなす場合には手でもぎとらないで、ニッパーやナイフ等でていねいに切り取って下さい。

★接着剤はあまり多くつけずに少しづつ両面につけましょう。

★塗装は組み立てが完了してから行ないます。塗装には、タミヤから発売しているパクトラタミヤカラー、又全体の塗装にはスプレー式のタミヤカラーが便利です。



1 《砲身のくみため》

閉鎖機、A 3、A 2は左右に動きます。これは装填の際、装填部に砲弾を入れたり、空薬を排出するための機構で、75mm砲のような水平式の他、垂直式等のさせん式とネジによって閉鎖するかくら式があります。

3 《砲架のくみためととりつけ》

《右砲架》
A 7
A 21

《左砲架》
A 24
A 18
A 8
A 37
A 36
A 16
A 17

照準器
クロスブラック

★砲身は駐退機にはめこみ、前にいっぱいまで差し込んだ状態が平常時の位置になります。

4 《砲盾のくみため》

可動砲盾 A 30は、砲身の上下と連動して上下します。接着しないで動くように組立てて下さい。

ST J.T.A SAFETY TOY J.1090308

家庭用品品質表示法による接着剤品質表示
1. 幼児の手の届かないところに保存し、いたずらをしない様注意して下さい。
2. 火気に注意し換気をよくして下さい。
3. 故意に吸わない様注意して下さい。
表示者 S.Z.3000 S.Z.3006 S.Z.5013

部品を取出し、幼児がたまたま口に吸った場合に破損する恐れがあります。破損した部品は、破片として捨ててください。

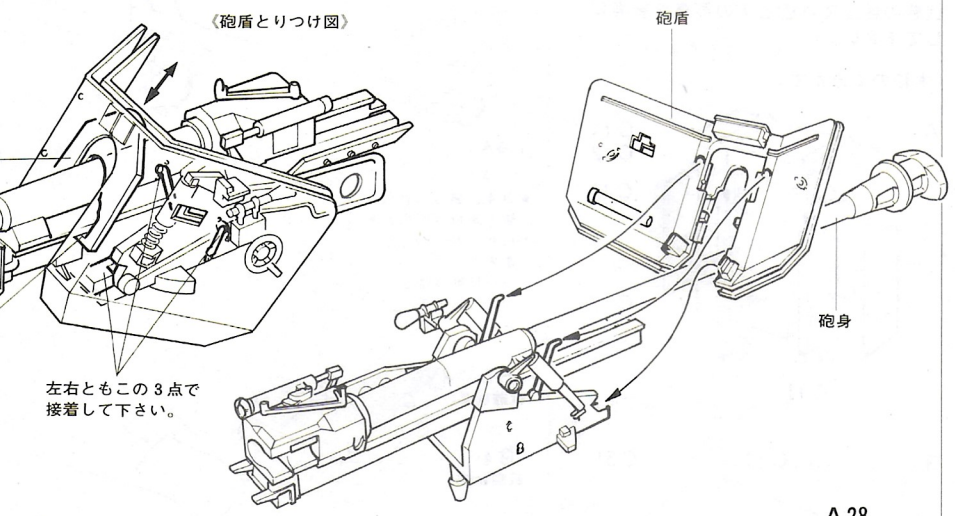
5 《砲盾のとりつけ》
 砲盾とりつけ図を参考に左右各3
 点で接着して下さい。又可動砲盾の下
 側のピンを駐退機のレールにかけ、は
 め込んで下さい。

A 30
 ★A 30は砲身の上下により連動
 するようになっています。

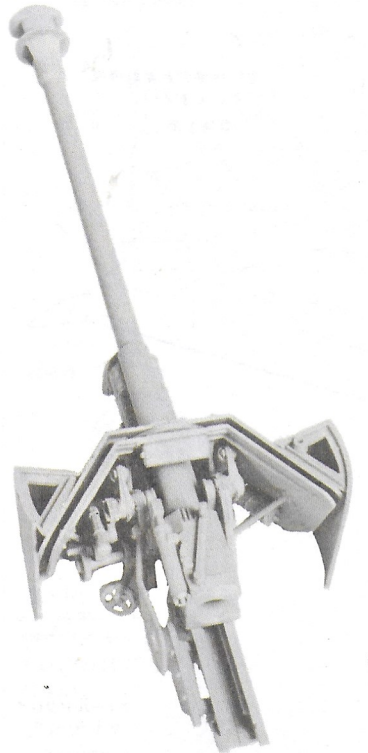
↑
 ↓

駐退機のレールに
 はめ込みます。

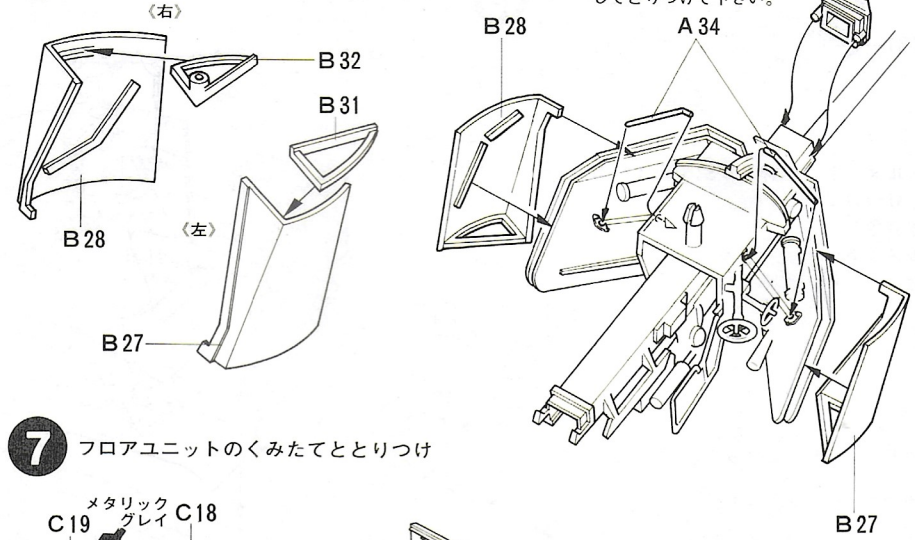
5 砲盾のとりつけ



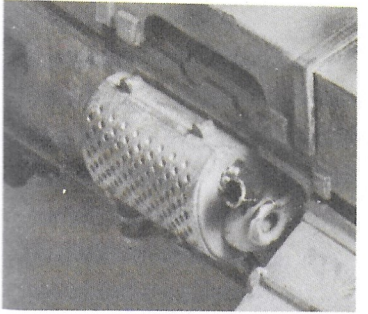
6 《補助砲盾のくみたととりつけ》
 補助砲盾は砲の裏側から補助砲盾
 の案内を砲盾とあわせてとりつけて下
 さい。



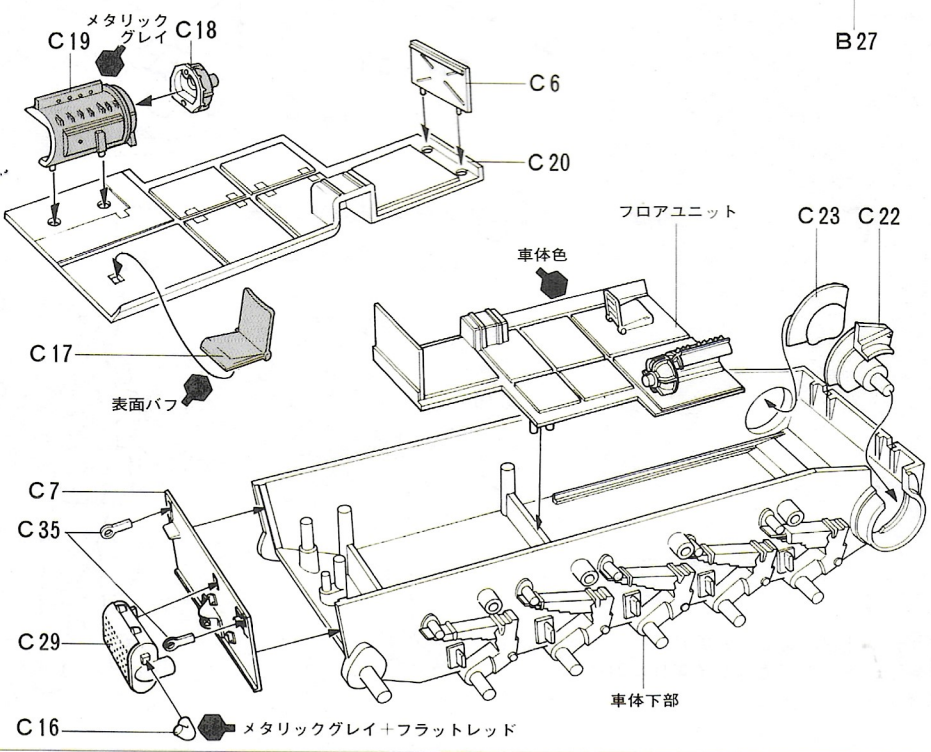
6 補助砲盾のくみたととりつけ



7 《フロアユニットのくみたとと
 りつけ》
 テールパイプC16は取付角度がありま
 す下の写真を参考にしてとりつけて下
 さい。

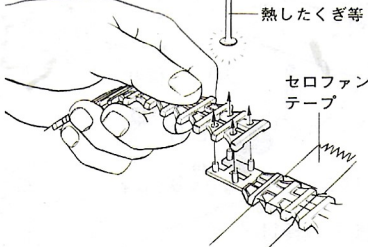


7 フロアユニットのくみたととりつけ

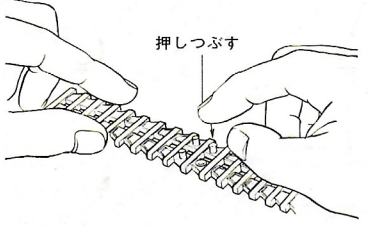


8 《ホイルのくみたととりつけ》
 スプロケットホイル2個、ロードホイル10個、リヤホイル2個を組立めます。各ホイルにはさみこむポリキャップは回転します。接着剤がつかないように注意して下さい。

《キャタピラのくみたて》
 ★①キャタピラ的一方をセロファンテープで机の上に固定し、ピンを穴にはめこみます。次にローソク等で熱したくぎの頭やドライバーの先でピンの頭を軽く熱します。



★②すぐに指でピンを押しつぶしキャタピラを連結させます。

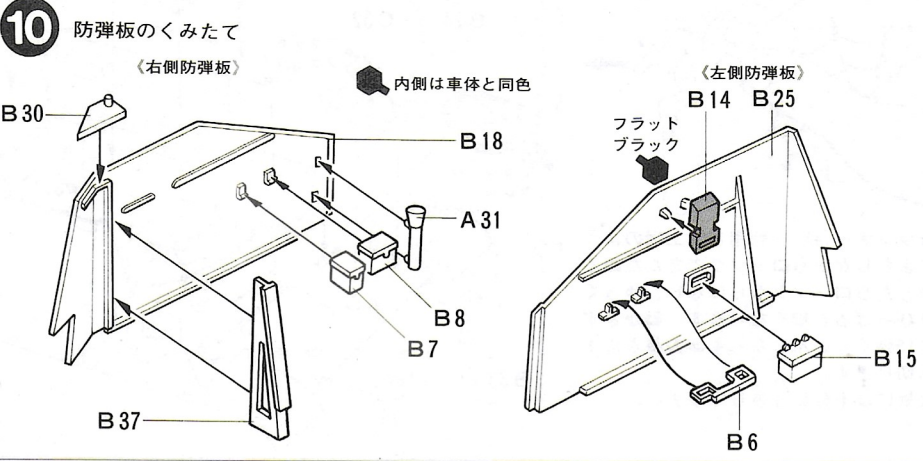
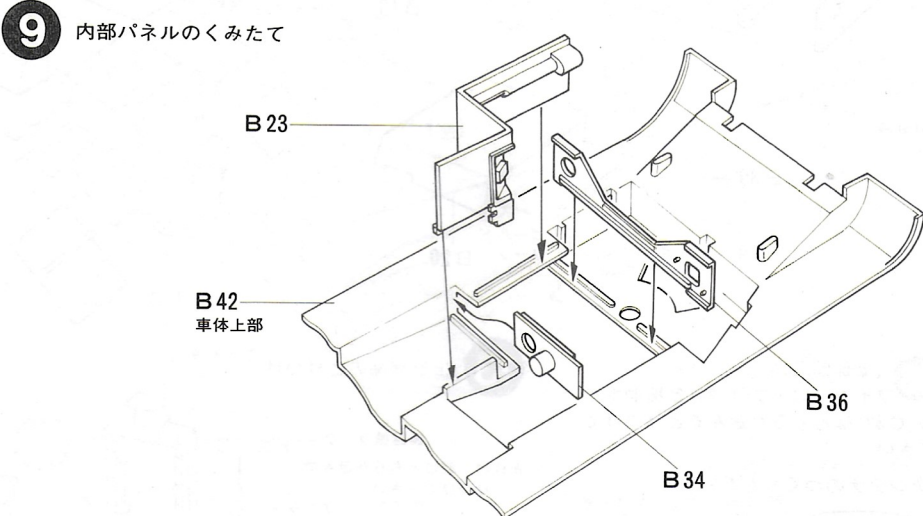
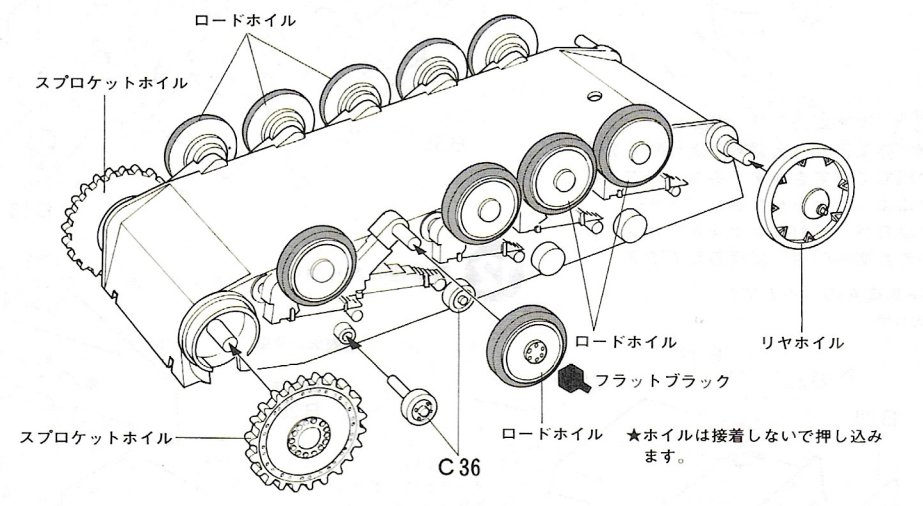
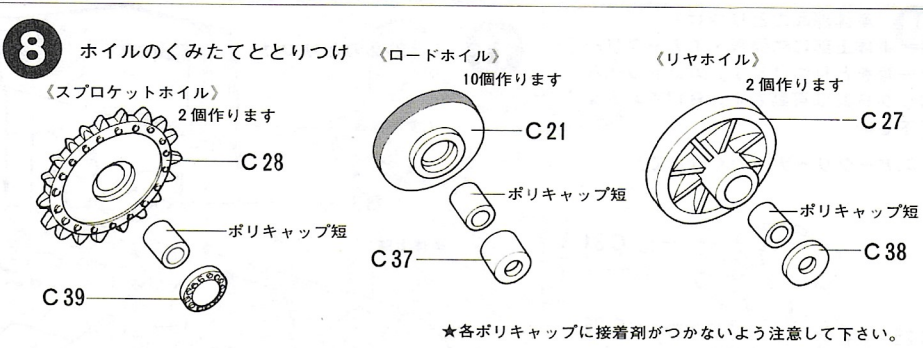
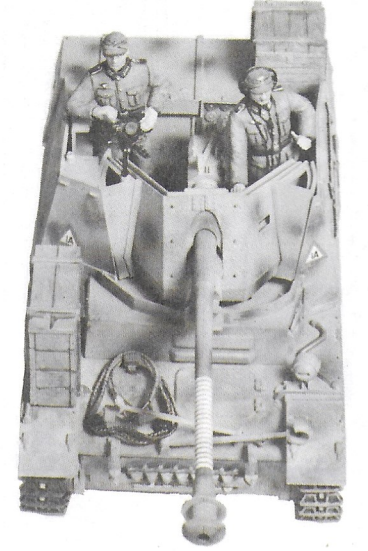


★キャタピラが切れたり焼止めが弱かった場合には図の様に、黒糸かホッチキスで補強して下さい。

★キャタピラのくみたてには火を使用しますからケガや火災には十分注意して下さい。

9 《内部パネルのくみたて》
 各部品は接着部分をよくたしかめてからとりつけて下さい。

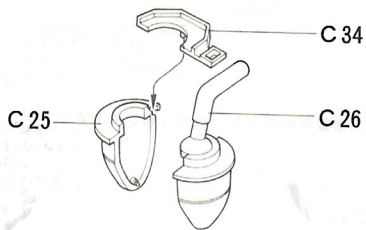
10 《防弾板のくみたて》
 左右の防弾板をくみたてます。B18が右、B25が左側の防弾板です。



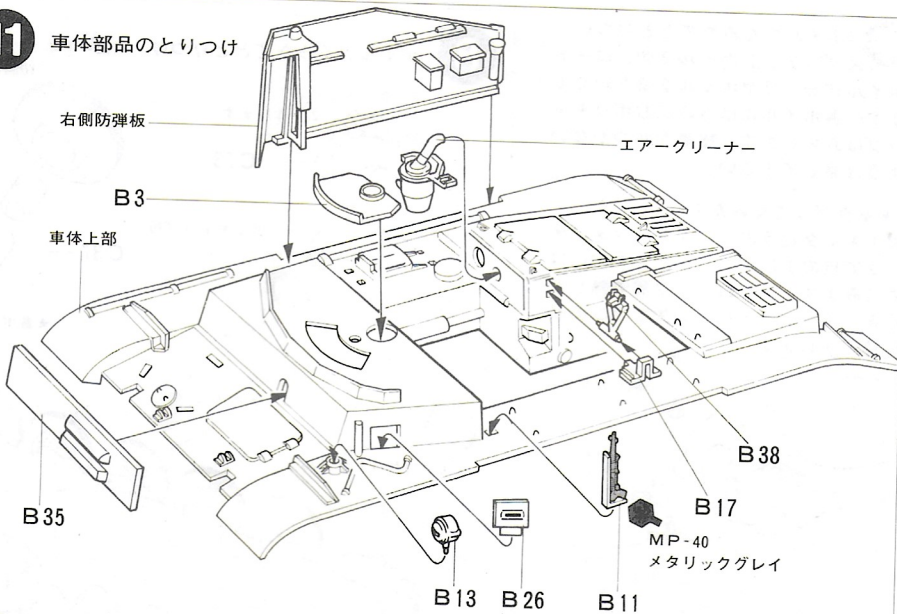
11 《車体部品のとりつけ》

車体上部に防弾板・エアークリーナー等を取りつけます。ガントラベルロック B38は可動です。B17でおさえて下さい。

《エアークリーナーのくみたて》



11 車体部品のとりつけ

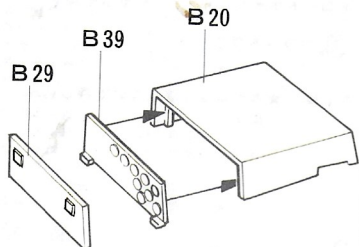


12 《弾薬箱のとりつけ》

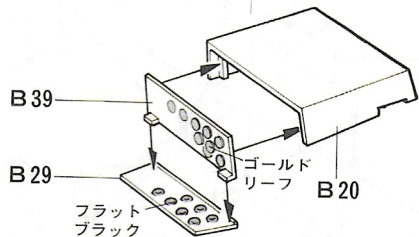
弾薬箱 A は戦闘時と走行時の 2 種の組立てができます。あなたの作る状態によってどちらかを選んで下さい。部品 B19、B41は弾薬箱 A の B20 に書かれた案内の場所に接着して下さい。

《弾薬箱 A のくみたて》

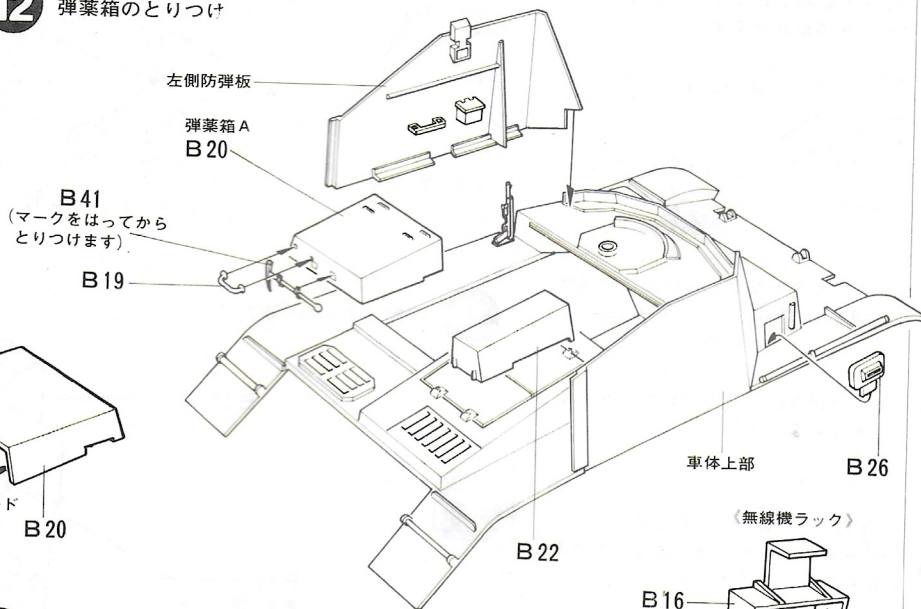
走行時



戦闘時



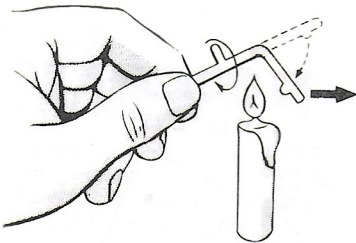
12 弾薬箱のとりつけ



13 《上部部品のとりつけ》

ワイヤーロープ (B24) と補助ホイール (C32) はどちらかを選んで取り付けして下さい。

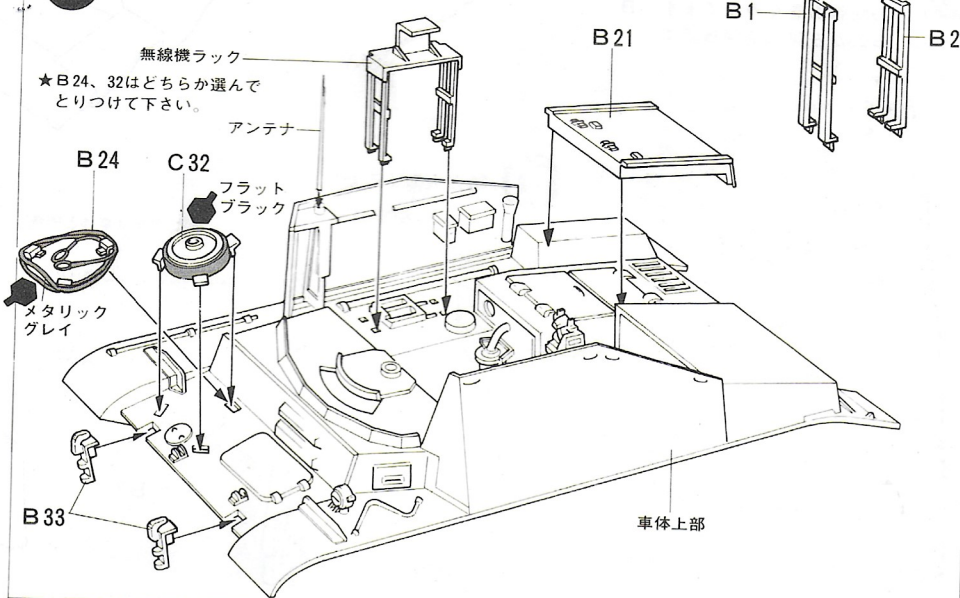
《アンテナのつくりかた》



★ランナー(枝)を利用して上図のようにまわしながらローソクであたためて曲ったらローソクからはなし、ゆっくりひっぱると細くなります。動かさずに15秒ぐらい冷したら4cmの長さに1本切ります。火気には十分に注意して下さい。

13 上部部品のとりつけ

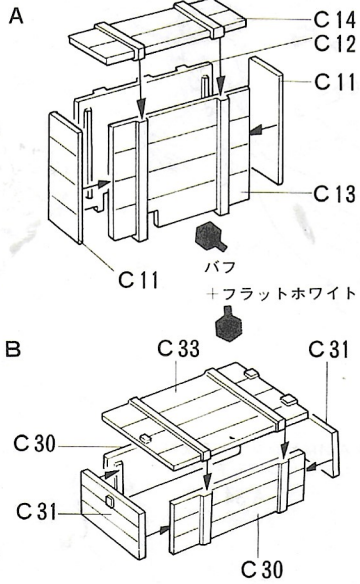
★B24、32はどちらかを選んで取り付けして下さい。



14 《砲のとりつけ》

B 5、B 4は戦闘状態と走行状態のどちらかにとりつけられます。走行状態の組立ては**16**と下の写真を参考にしてください。

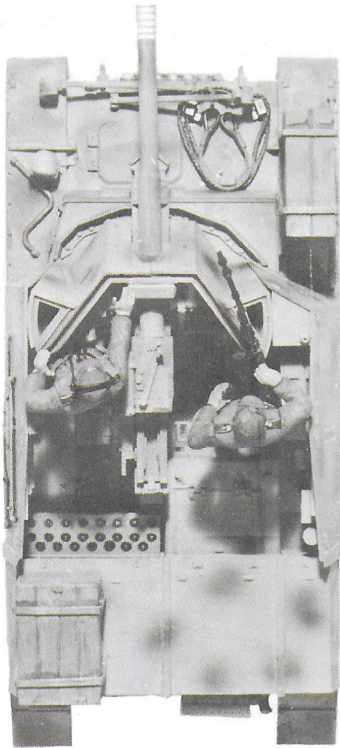
《木箱のくみため》



★ヘルメット、砲弾及び空薬夾は自由にとりつけて下さい。

★塗装色

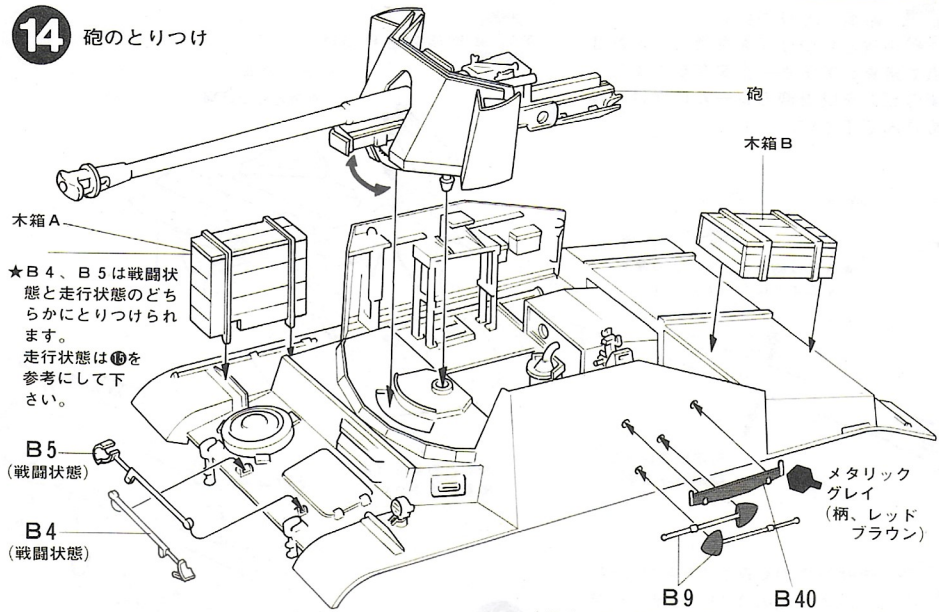
ヘルメット……………フィールドグレイ
砲弾……………先端フラットブラック
薬夾ゴールドリーブ



16 《人形のくみたと塗装》

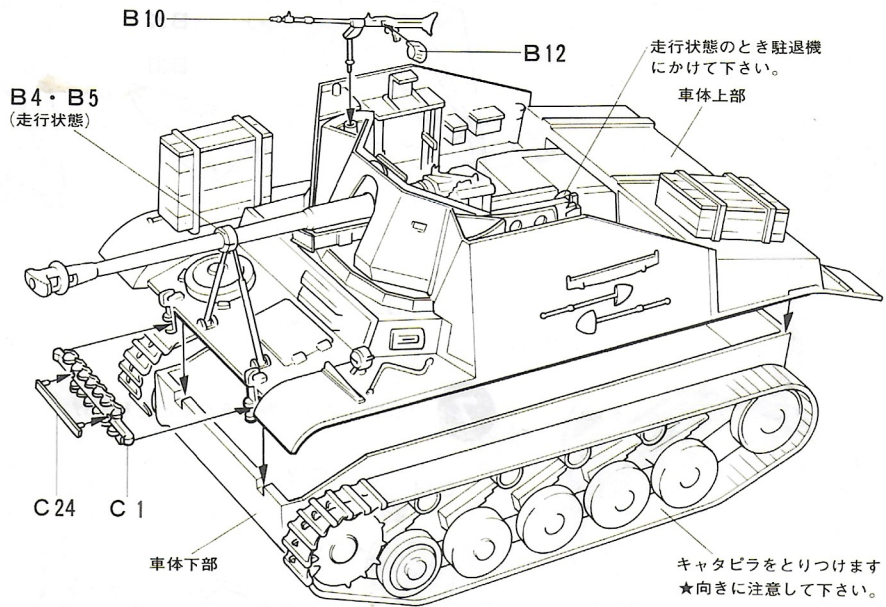
上の写真を参考に車体にのせて下さい。

14 砲のとりつけ

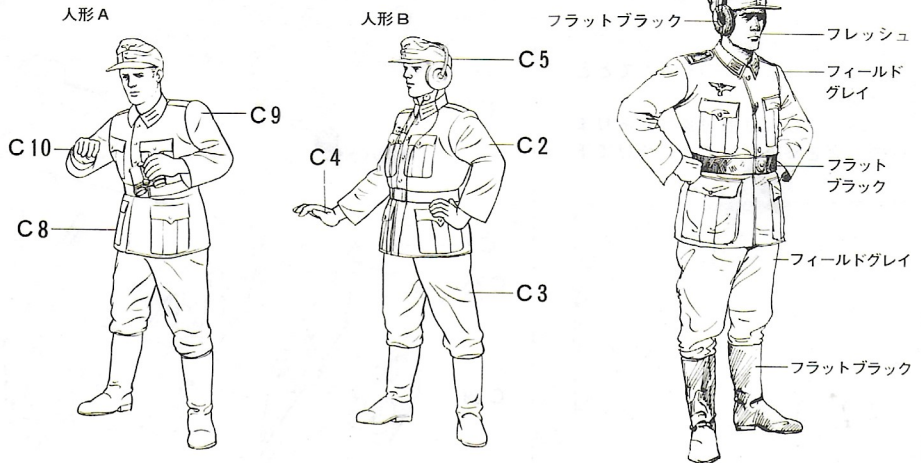


★B 9、B 40はマークをはってからとりつけて下さい。

15 マーダーIIの完成



16 人形のくみたと塗装





《マーダーIIの塗装》

1935～43年2月に至るまでドイツの軍用車輛の塗装色はアフリカ向けのダークイエロー及びダークイエローにレッドブラウンの迷彩とジャーマングレイにダークグリーンとの迷彩、ヨーロッパ向けにはジャーマングレイ色ときめられていました。1942年に至ってアフリカ向けの2種の迷彩はダークイエローとレッドブラウンの迷彩におきかえられました。冬のロシア戦線ではフラットホワイトの水性塗料で塗られました。1943年2月18日、軍の通達でそれまでの色はすべて廃してダークイエローが基本色となりました。その他の色は戦域によって現地軍が基本色の上にかさねて塗ったものでその迷彩パターンは一定ではありませんでした。色はダークイエローの基本色の上に、レッドブラウン、ダークグリーンで迷彩されました。

《使用する塗料》

★各部の塗装はパクトラタミヤカラーで指示してあります。全体の塗装にはスプレー式のタミヤカラーが便利です。

- フラットブラック……………XF-1
- フラットホワイト……………XF-2
- メタリックグレイ……………XF-56
- ダークイエロー……………XF-60
- ダークグリーン……………XF-61
- ジャーマングレイ……………XF-63
- レッドブラウン……………XF-64



《マーダーIIのマーキング》

マーダーIIはロシア戦線で多く使用され、歩兵支援に活躍しました。ですからその配属部隊も歩兵師団、機械化歩兵師団、装甲擲弾兵師団などでした。

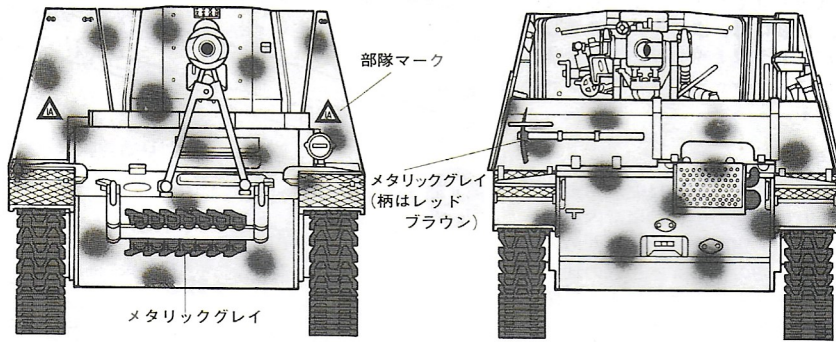
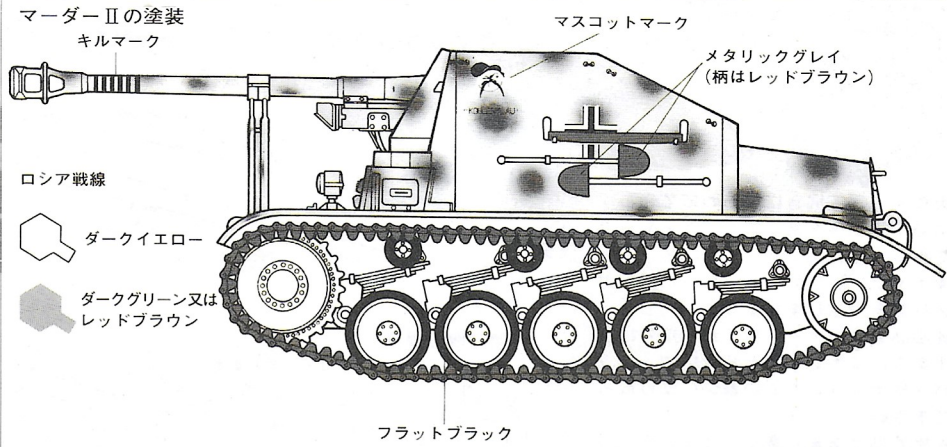
《師団マーク》

第320歩兵師団	第216歩兵師団
第168歩兵師団	第16機械化歩兵師団
第10装甲軍団兵師団	

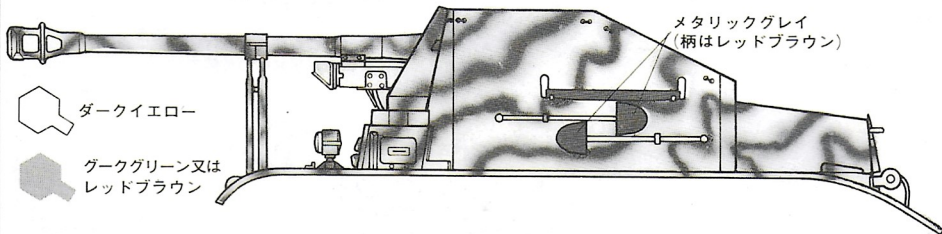
《戦術マーク》



《その他のマーク》



迷彩塗装の例



マークの位置

